

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
鳥取市（鳥取県）

全体総括

○計画期間；平成19年11月～平成25年3月（5年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、鳥取駅周辺地区、鳥取城跡周辺地区の2つの核とそれらをつなぐ若桜街道、智頭街道の2つの軸（二核二軸）の都市構造を踏まえた街づくりを基本に、認定された基本計画（以下「1期計画」という）に基づき「住みたいまち」、「行きたいまち」、「ふるさとを感じるまち」の実現に向けて、各種事業に取り組んできた。

■「住みたいまち」について

「低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業」により大型の民間集合住宅が平成19年度以降5棟（駅周辺4棟、城跡周辺1棟）建設され、居住人口の増加に大きく寄与したものの、経済状況や用地の不足により、建設戸数は見込みの半分程度となった。また、「UJIターン促進事業」は市全体では成果を上げているものの、中心市街地への定住者数は当初見込み値には届かなかった。さらに、既存建物のコンバージョンや共同建替が進まないこと、少子高齢化による人口の自然減少が大きいことが人口増加を鈍らせている。

一方で、中心市街地での居住体験施設の整備や住まいの総合相談窓口の設置により、情報提供体制や街なか居住体験を提供する仕組みが構築された。また、鳥取生協病院の整備により、安心して住み続けられる生活環境が付加されたとともに、生鮮食料品販売店舗を含む商業施設の運営や、循環バス（くる梨）の定期運行により、居住者の利便性は高まっている。

■「行きたいまち」、「ふるさとを感じるまち」について

「鳥取市商業振興補助事業・鳥取市新規創業・開業支援事業」や「チャレンジショップ事業」の支援による新規開業店舗数は約30店舗を超えているが、業績不振、経営者の高齢化、後継者の不在を理由とする廃業数がそれを上回る状況であり、空き店舗数の減少に至らなかった。

一方で、西町広場の整備をはじめ、市営片原駐車場の利用台数と中電ふれあいホールの利用者数の増加により、周辺の歩行者通行量は増加しており、来街者の利便性向上と人の流れの創出が図られた。また、商店街の拠点施設である「パレットとっとり」、「五臓圓ビル」、「こむ・わかさ」には多くの入館者があり、来街者の呼び込みと商店街の活性化に寄与している。

さらに、文化施設の入込み客数は、わらべ館、仁風閣のリニューアルや、さまざまな展示・イベントの開催により、増加傾向にある。また、中心市街地活性化イベント支援事業等を活用したイベントの開催は、賑わいを生み出すとともに、イベントの運営が活性化の取組を担う人材の育成につながっている。

これらの取組を総合的に評価すると、居住人口の増加の低迷、空き店舗数の増加という課題は残ったものの、安心安全な生活環境の付加をはじめ、拠点施設の整備やイベントの開催等により、居住者の利便性の向上や賑わいの創出等が図られた。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

1期計画に掲載された73事業のうち、25事業が完了、44事業が実施中、4事業が未着手、着手率は95%であり、概ね予定どおり進捗した。

「低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業」や「UJIターン促進事業」等の居住推進の取組により、中心市街地区域内の居住人口は計画策定時に比べ微増となった。目標値に達することはなかったものの、平成18年の12,163人から平成25年には12,407人と約2%増加しており、同時期の市全体の人口が約2.5%減少していることと比べると、取組の効果はあらわれており、活性化につながったと考えられる。

また、

- ◇「西町広場（緑地）整備事業」、「片原駐車場整備事業」等の市街地整備改善
- ◇「大型空き店舗再生事業（本通りビル）」、「五臓圓ビル再生事業」等の商店街の拠点施設の整備
- ◇「チャレンジショップ事業」、「鳥取市商業振興補助事業・鳥取市新規創業・開業支援事業」等の商業活性化・空き店舗対策
- ◇「中心市街地活性化イベント支援事業」、「仁風閣イベント事業」、「わらべ館イベント事業」等による賑わい創出
- ◇「100円循環バス「くる梨」運行事業」等による公共交通の整備

等の多岐にわたる取組は、中心市街地の魅力向上、来街者の呼び込みや利便性・回遊性の向上、文化施設の入込み客数の増加に寄与した。中心市街地全体の歩行者通行量は減少傾向にあるものの、事業実施箇所周辺では増加している地点も多く、人の流れや賑わいが創出されていることから、中心市街地の活性化はある程度図られたと考えられる。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（鳥取市としての見解）

鳥取市と鳥取市中心市街地活性化協議会が一体となって計画事業の推進を図ったことにより、多くの民間事業の実現につながった。また、交通社会実験や上記「2.」のような多岐にわたる活性化事業に取り組んだ結果、中心市街地の魅力向上、来街者の呼び込みや利便性・回遊性の向上、文化施設の入込み客数の増加等の成果に加え、課題の明確化・事業のノウハウの蓄積などの成果が得られ、「鳥取駅周辺再生基本構想策定事業」、「市道駅前太平線空間整備事業」等の新たな事業に繋

げることができた。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

1 期計画では、計画上の事業が概ね取り組まれ、地域の活力低下に対して一定の歯止め効果を得ることができた。また、5年間で当初計画に盛り込まれていなかった18事業が追加となったように、新たな事業の掘り起こしを行うことができ、民間団体や商店街振興組合等の中心市街地活性化に対する積極的な姿勢が醸成されてきた。

居住人口については、各種取組やマンション建設の効果により微増となった。一方で、少子高齢化の進展に伴う子育て支援や高齢者福祉などの課題に対応するため、地域コミュニティを醸成する機能の必要性が高まっている。空き店舗数については、情報提供や補助制度による若手世代の新規開業といったプラス要素に対して、後継者不足等による活力低下に伴う廃業の増加等のマイナス要素が大きく、結果的に空き店舗が増加した。また、老朽化した建物の更新促進による連鎖的投資の誘導が課題として残された。歩行者通行量については、駅周辺地区で目標値を下回る結果となったが、商業や文化の拠点整備・改修やテナント誘導が図られた周辺では、局地的ではあるが第1期基本計画策定以前より増加している。文化施設の入込み客数についても、施設リニューアル等により一時的な効果がみられた。今後の課題としては、継続的な集客及び通行量増加のため、イベント開催等のソフト面を強化し、拠点施設を効果的に活用する仕組みが求められる。

商店街活動や市民活動団体の問題意識や危機意識を高め、自らがまちを守る意識を醸成し、その対策検討に向けた体制強化という次なるステップへの課題が浮き彫りとなり、2期計画への期待は大きい。また、官民連携により事業を推進していく体制の構築も重要となってくると考える。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

- (1) 調査実施時期：平成24年2月
- (2) 調査方法：郵送アンケート
- (3) 配布・回収結果：配布数4,000枚、回収数1,605枚、回収率40.1%

【総括】

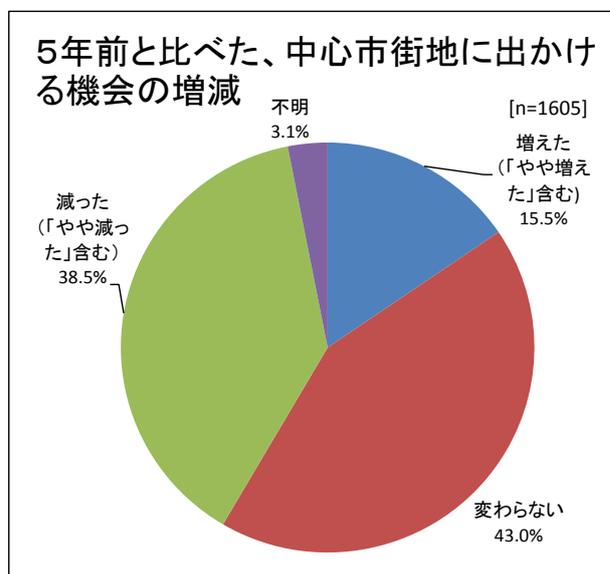
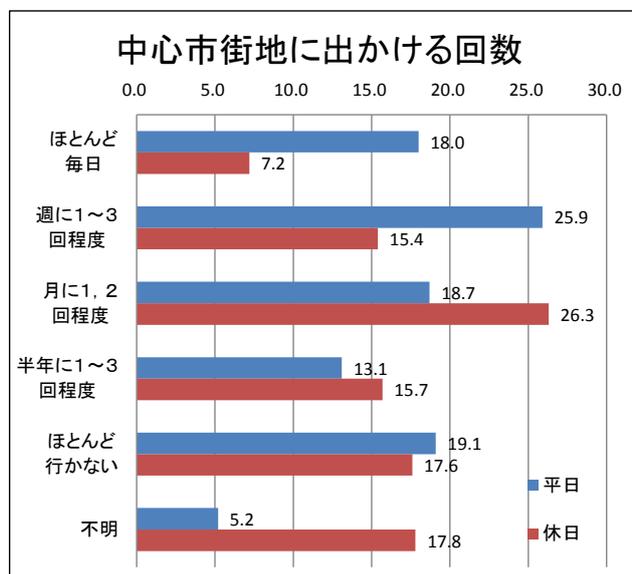
アンケートの結果、5年前と比べ中心市街地に出かける機会は減少傾向にあり、「ほとんど行かな

い」と答えた人の割合が約 20%となっている。また、中心市街地の現在の印象では「娯楽施設が充実」、「買い物に満足(商品・店舗)」、「県内外から人が訪れる魅力がある」という意見が少なく、中心市街地全体の印象についても、「悪い、やや悪い」が「良い、まあ良い」を上回っている。一方で、「公共施設が充実している」、「治安が良い」、「閑静な雰囲気」という意見が多く、暮らしやすい印象があることがうかがえる。

市民の中心市街地活性化への関心は高く、活性化の取組について、「駐車場整備」、「商店や集客施設の魅力向上」、「公共交通の利便性向上」が重要であるという意見が多かった。今後とも、これらの意見を踏まえながら、市民が活性化を実感できるような取組を実施していくことが必要である。

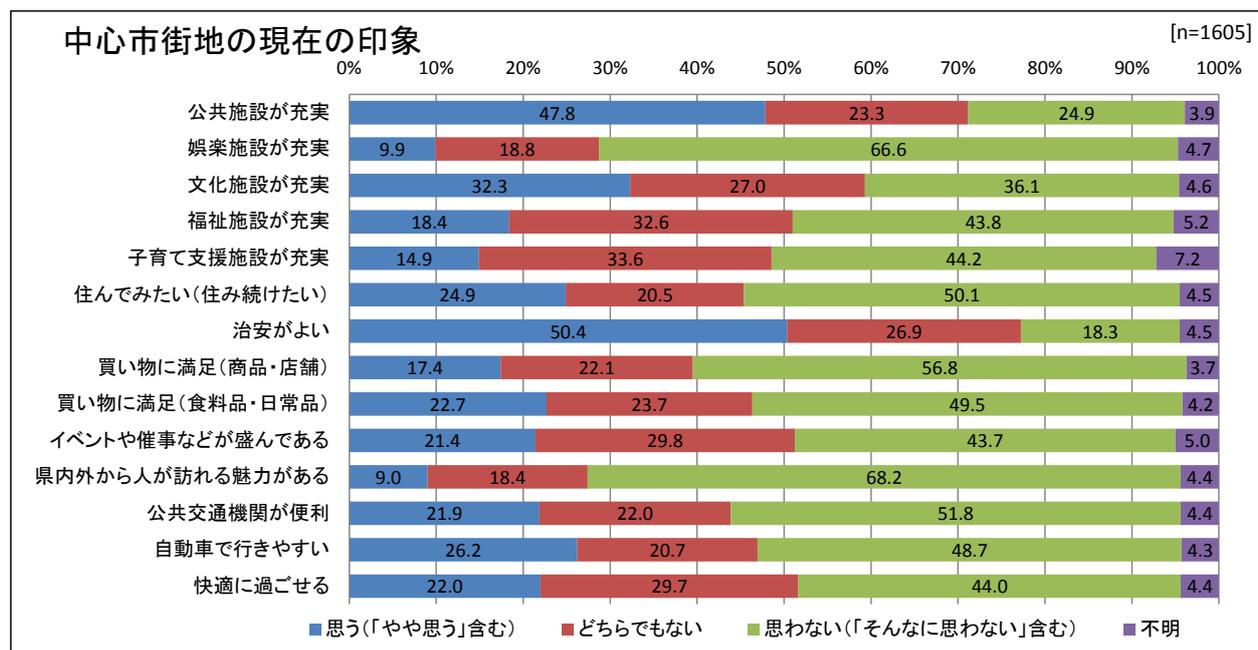
◇出かける機会

「変わらない」が最も多かったが、「減った」が「増えた」を上回っており、中心市街地に出かける機会は、減少傾向にあることがうかがえる。



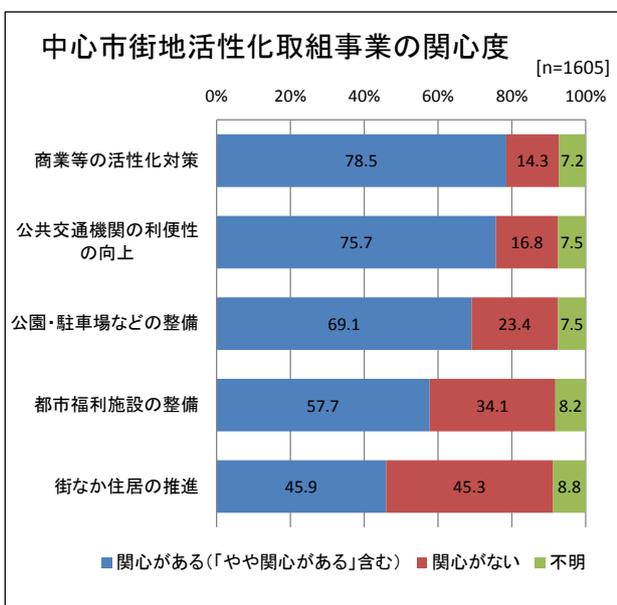
◇現在の印象

「公共施設が充実しており、治安がよい」という肯定的な意見が多い一方で、「娯楽施設や買い物、イベントが充実している」、「県内外から人が訪れる魅力がある」という意見は少ない。



◇中心市街地活性化取組事業について

活性化取組事業について、全体的に関心度が高いことがうかがえる。活性化には、「駐車場の整備」や「働く場の確保」、「魅力的な商品などを扱う店舗」が重要であるという意見が多かった。



中心市街地活性化に重要(「やや重要」含む)なこと(上位10項目)

項目	割合(%)
駐車場の整備	81.5
若者などの働く場の確保	79.5
魅力的な商品などを扱う店舗	77.1
公共交通機関の利便性向上	75.7
安全・安心の街づくり	75.0
快適に過ごすための環境づくり	70.4
観光客などの誘致	66.9
食料品・日用品などを扱う店舗	66.5
歩行者と自転車の分離推進等	64.0
イベントや催事の開催	60.4

6. 今後の取組

1期計画の成果と課題、事業の検証を踏まえ、引き続き中心市街地活性化の取組を推進するために「第2期鳥取市中心市街地活性化基本計画」(以下「2期計画」という)を策定し、平成25年3月に認定を受けた。

2期計画では、「住みたい、行きたい、ふるさと鳥取～因幡国の都市核づくり～」をテーマに、

1期計画の考え方である「二核二軸の都市構造を踏まえたまちづくり」を引き継ぐ。鳥取駅周辺地区を、「因幡の都市核として駅を中心に都市機能が集中・集積する舞台」、鳥取城跡周辺地区を、「歴史・文化等を有する豊かな居住・交流の舞台」と位置付け、さらにそれぞれの特性や既存の取組等を踏まえた複数のゾーンを設定し、各ゾーンの機能の充実と相互の連携を図っていく。

また、「街なか居住の推進」と「賑わいの創出」を基本方針と定め、1期計画の検証から導き出された「中心市街地への転入促進施策の促進」、「低未利用地の増加対策」、「拠点施設の集客効果の周辺への波及」、「公共交通整備による来街者の利便性・回遊性の確保」、「お堀端周辺の修景・景観保全」等の課題を基に、

- ◇既存ストックの活用等による街なか居住の推進
- ◇鳥取駅周辺の多様な機能の活用・拡充等による賑わいの再生
- ◇公共交通の拡充等による中心市街地内の交通環境の改善・回遊性向上
- ◇地域資源の活用等による観光交流の促進

を重点施策と定め、官民が共通の認識のもと、関連事業を的確に実施していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
住みたいまち	居住人口	12,268人	12,800人	12,407人	H25.3	B
行きたいまち	歩行者通行量 (鳥取駅周辺地区)	13,732人	14,400人	12,428人	H24.8	C
	歩行者通行量 (鳥取城跡周辺地区)	1,715人	1,800人	1,884人	H24.8	A
	空き店舗数	55店舗	46店舗	68店舗	H24.10	C
ふるさと感じるまち	文化施設の入込み客数	150,984人	169,000人	156,782人	H25.3	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

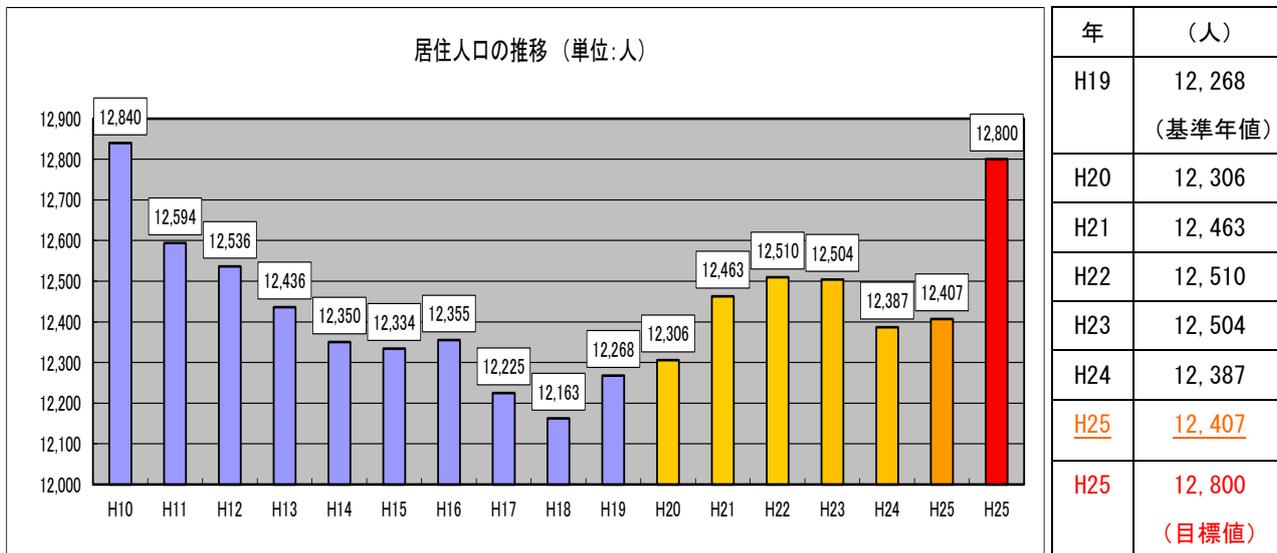
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「住みたいまち」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P47 参照

1. 目標達成状況の総括



※調査方法；住民基本台帳により、毎年3月31日現在における中活区域内に存在する町（全部または一部が含まれる）の人口を集計し、把握。

※調査月；平成25年3月

※調査主体；鳥取市

※調査対象；中心市街地区域内

【総括】

「低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業」、「住宅市街地総合整備事業」、「戎町地区防火建築帯共同建替事業」等の一部事業は計画通りに進捗しなかったものの、「UJIターン促進事業」等の他の事業は概ね予定どおり進捗・完了した。居住人口は、平成20年以降12,300人～12,500人を推移した。目標年である平成25年には12,407人となり、目標値を393人下回り、目標達成に至らなかったが、基準年値は越えている。

「低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業」による大型の民間集合住宅の建設が、居住人口の増加に大きく寄与してきたが、経済状況や用地不足により平成21年度以降新規着工が無く、建設戸数は見込みの半分程度となった。また、既存建物のコンバージョンや共同建替が進まないこと、少子高齢化による人口の自然減少が大きいことなどが、人口増加を鈍らせる要因となった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業（穴吹工務店ほか）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成19年度～平成24年度
事業概要	民間事業者等による高層集合住宅建設
目標値・最新値	居住人口の増加 目標値：+836人 10棟建設(10棟×68戸×1.5人)

	最新値：+519人 5棟建設（346戸×1.5人）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	経済状況や用地の不足により、平成20年度以降民間集合住宅の新規着工が無く、建設戸数が見込みの半分程度となった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成19年度～平成20年度に5棟（346戸）建設され、居住人口の増加につながった。
低未利用地を活用した民間集合住宅建設事業の今後について	駅周辺地区で1棟、新規着工の動きがある。

②. 住宅市街地総合整備事業（鳥取市・地域住民）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（住宅市街地総合整備事業） 平成18年度～平成20年度
事業開始・完了時期	—
事業概要	老朽化した家屋や構造上の課題を抱える住居、低未利用地の利活用や共同建て替え等によって住環境の向上を図り、新たな住宅供給方式（定期借地やコーポラティブ方式等）によるモデルプロジェクトやグループリビングの生活体験施設の整備等を展開する。これにより定住や利便性を促進する。
目標値・最新値	居住人口の増加 目標値：+66人 最新値：—
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	H18年度に構想を策定したが、事業要件を満たすことができず、事業実施には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	構想策定に伴う調査研究結果や地権者による事業検討会等の成果は、「戎町地区防火建築帯共同建替事業」や「コーポラティブハウス普及支援事業」の実現につながった。
住宅市街地総合整備事業の今後について	事業実施に至らず、今後の予定もない。

③. UJIターン促進事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業） 平成18年度～
事業開始・完了時期	平成18年度～
事業概要	県外から市内への定住希望者に対し、空家物件等の各種情報提供や住宅購入費助成等の各種支援を行う。
目標値・最新値	居住人口の増加 目標値：+60人（UJIターン促進事業を含むその他の各種定住施策のもの） 最新値：+50人（UJIターン促進事業単体の値）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	市全体では成果を上げているが（H19～H24で957人）、中心市街地への定住者数が少なかった。
計画終了後の状況（事業効果）	市全体では成果を上げている（H19～H24で957人）。中心市街地への定住者数は少ないものの、定住促進に一定の効果があった。
UJIターン促進事業の今後について	引き続き、中心市街地における居住人口の増加、並びに中心市街地への関心喚起のために、事業を推進していく。 中心市街地へのUJIターン情報の発信強化をめざす。

3. 今後について

平成 25 年 3 月に認定を受けた 2 期計画では、活性化の目標のひとつである「街なか居住の推進」に係る指標を、居住推進事業の効果を直接的に把握しやすい「中心市街地内の居住人口(社会増減)」としている。

引き続き、中心市街地内の定住促進による居住人口の増加と賑わい創出をめざし、戎町地区防火建築帯共同建替事業やU J I ターン促進事業を推進するとともに、定期借地・コーポラティブ方式による住宅供給の普及、支援を行っていく。

また、街なか居住の情報提供、啓発のために、「街なか居住体験施設」の利用促進及び住まいの情報ネットワーク「住もう鳥取ネット」の活用を推進していく。

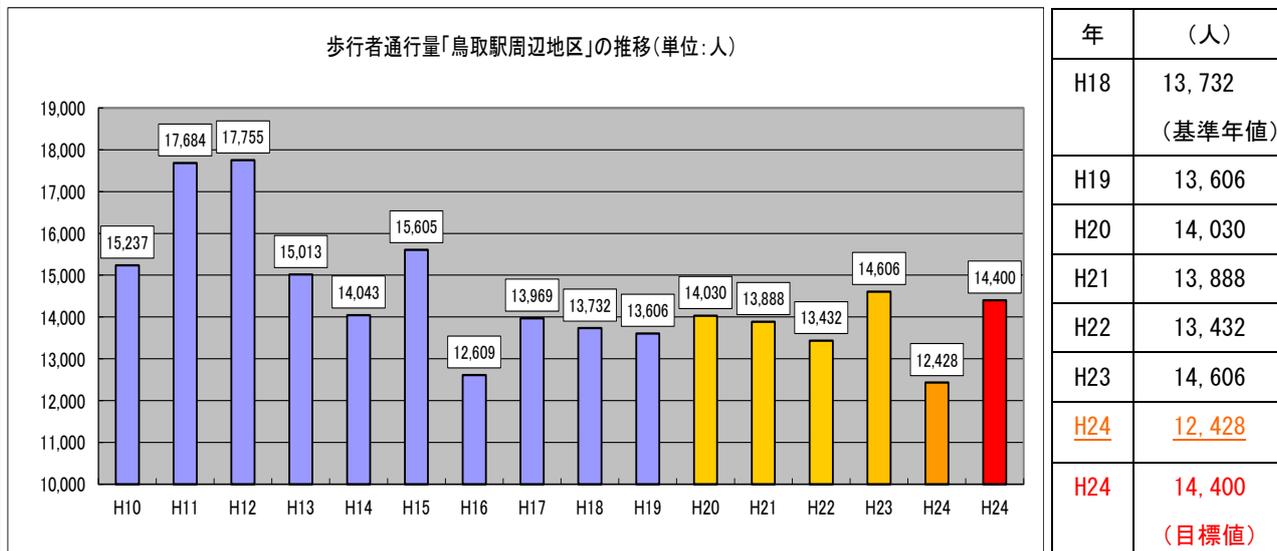
このほか、住宅取得資金に対する利子補給による転入居者支援、空き家、空き床の改修・整備による物件所有者支援など、地権者・居住者に対する新たな支援メニューを創設し、居住人口のさらなる増加をめざす。

個別目標

目標「行きたいまち」

「歩行者通行量（鳥取駅周辺地区）」※目標設定の考え方基本計画 P47～P48 参照

1. 目標達成状況の総括



※調査方法：鳥取商店街連合会に調査実施を委託。7月最終週または8月第1週の平日1日ずつ計2日間において調査。該当地区内7地点において、10：00～19：00まで調査員が数取器により計測。各地点の2日間平均値を集計し、把握する。

※調査月：平成24年8月

※調査主体：鳥取商店街連合会

※調査対象：7地点（旧A-1前、パレット前、旧物産観光センター前、谷本酒店前、鳥取信用金庫本店前、サンプルアンプル前、末広Sマート前）における歩行者および自転車の平日2日間の平均値

【総括】

市民ふれあい広場整備等の一部事業は計画通りに進捗しなかったものの、鳥取生協病院移転整備事業等の他の事業は概ね予定どおり進捗・完了した。歩行者通行量は、平成20年度以降緩やかに減少していたが、平成23年度には14,606人となり目標値を206人上回った。しかし、目標年度である平成24年度は猛暑の影響もあり（調査日の最高気温は37.3度）、計画期間中で最も少ない12,428人となり、目標値を1,972人下回る結果となった。

各事業の実施により、中心市街地の利便性と魅力が向上し、来街者及び周辺歩行者通行量の増加につながったが、その効果は限定的であり、目標達成には至らなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 鳥取生協病院移転整備事業（鳥取医療生活協同組合）

支援措置名及び支援期間	医療提供体制施設整備交付金 平成19年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成20年度
事業概要	中心市街地内における鳥取生協病院移転と地域に根ざした大型医療

	<p>施設を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨 10 階造 ・敷地面積 4,720 m² ・建物延床面積 15,624 m² ・17 診療科、1 センター・一般病床 260 床（一般病床 200、回復期リハビリ病床 44、緩和ケア病床 16）
目標値・最新値	<p>歩行者通行量(平日)の増</p> <p>目標値：+354 人</p> <p>最新値：△492 人</p> <p>目標値を当該地直近の調査地点（1 地点）+その他の調査地点（6 地点）のうちいずれか 3 地点の通行量の増加としているので、最新値は、当該地直近の 1 地点+（その他 6 地点の平均値×3）とした。</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	整備後、周辺歩行者通行量が増加し、当該地直近の調査地点の歩行者通行量は 320 人増となったが、周辺の他の調査地点まで効果が波及しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	<p>市内外より年間 20 万人程度の利用者があり、駅周辺地区への来街者の呼び込みにつながっている。徒歩圏内における総合病院の機能が強化されることにより、高齢者の多い中心市街地居住者の利便性向上につながっている。</p> <p>当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年度に比べ 320 人増加。</p> <p>H18 年 1,320 人 → H24 年 1,640 人</p>
鳥取生協病院移転整備事業の今後について	実施済み

②. 健康福祉施設整備・運営事業（鳥取医療生活協同組合）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 24 年度
事業概要	鳥取生協病院移転整備後の病院跡ビルを改修し、在宅介護のサポート、健康づくり、子育て支援等の機能を備えた施設として再整備する。
目標値・最新値	<p>歩行者通行量(平日)の増</p> <p>目標値：+112 人</p> <p>最新値：△512 人</p> <p>目標値を当該近隣の調査地点 3 地点のうち 2 地点の通行量の増加としているので、最新値は、当該周辺の調査地点 3 地点の平均値×2 とした。</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業実施地点付近には人の流れが生まれたが、回遊性の向上には結びつかなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	<p>当初計画の見直しにより、高齢者住宅、健康づくり施設等の機能の導入が見送られた。</p> <p>跡ビルのうち、本館は駐車場へ転換予定。新館は、デイサービスセンター、訪問ヘルパーステーションとして使用されており、中心市街地の福祉機能の向上につながっている。</p>
健康福祉施設整備・運営事業の今後について	跡ビルの本館を駐車場へ転換する。新館には、在宅医療、訪問看護ステーション、居宅支援事業所、ヘルパー派遣、デイサービス+個別機能訓練など在宅医療・介護・福祉の総合施設へと展開してゆく計画。

③. 大型空き店舗再生事業（鳥取本通り商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 22 年度

事業概要	大型空き店舗となっている本通りビルを活性化の核として再生し、不足している業種やサービス機能を充足させ、回遊性の向上を図る。
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：③と④で+1,062人 最新値：△1,166人 目標値を当該地直近の調査地点(2地点)+その他の調査地点(5地点)のうちいずれか1地点の通行量の増加としているので、最新値は、当該地直近の2地点+その他5地点の平均値とした。
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	事業実施地点付近には人の流れが生まれたが、回遊性の向上には結びつかなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	1階空き店舗部分を改修し、郊外にあったベーカリーカフェが移転入居。新たな集客により、人の流れと賑わいが生まれている。 当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年度に比べ3人増加。 H18年 1,725人 → H24年 1,728人
大型空き店舗再生事業の今後について	実施済み

④. 大型空き店舗再生事業(鳥取商工会議所等)

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成22年度～
事業概要	大型空き店舗となっている旧鳥取県物産観光センター跡ビルを活性化の核として再生し、不足している業種やサービス機能を充足させ、回遊性の向上を図る。
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：③と④で+1,062人 最新値：△1,166人 目標値を当該地直近の調査地点(2地点)+その他の調査地点(5地点)のうちいずれか1地点の通行量の増加としているので、最新値は、当該地直近の2地点+その他5地点の平均値とした。
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	継続的な取組にもかかわらず、「旧鳥取県物産観光センター跡ビル」の再生に至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	実施中
大型空き店舗再生事業の今後について	「鳥取市国際観光物産センター(H25.7オープン予定)」を整備することにより、物産・観光・環日本海経済交流の拠点整備ならびに、中心市街地の賑わい創出が見込まれる。

⑤. チャレンジショップ事業(鳥取市)

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19年度～
事業開始・完了時期	平成16年度～
事業概要	中心市街地の空き店舗を活用し、仮店舗を設置したうえで新たな事業者の育成を図る。
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：+270人 最新値：△186人 目標値を全調査地点のうちいずれか1地点の通行量の増加としているので、最新値は、全調査地点の平均値とした。
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	チャレンジショップ卒業生の、平成20年度～平成24年度の中心市街地内での開業数は7店舗であり、目標の18店舗には及ばず、歩行

	者通行量の増加効果は限定的であった。 平成 16 年度からの累計 ・ 出店者数 53 ・ 卒業者数 47 ・ 開業者数 33 ・ 開業率 70.2% ・ 継続者数 29 ・ 継続率 87.9% (出店者数：チャレンジショップに出店した数、卒業者数：チャレンジショップを卒業した数、開業者数：卒業者のうち新たに開業した数、継続者数：開業者数のうち継続している数)
計画終了後の状況（事業効果）	空き店舗をチャレンジショップとして活用できたほか、卒業生がチャレンジショップで使用した店舗で引き続き開業するなど、空き店舗の解消、来街者の増加につながっている。 商工会議所が中心となって運営協議会を設置し、経営指導等によるサポートを行うことにより、地元商業者の育成につながっている。
チャレンジショップ事業の今後について	引き続き、開業・起業を支援することで、「空き店舗の解消」、「賑わいの創出」に寄与していく。

⑥. 市道駅前太平線空間整備事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（鳥取駅周辺地区）） 平成 22 年度～平成 26 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 26 年度
事業概要	J R 鳥取駅前に位置する「市道駅前太平線」に、まちの新たなシンボルとなる大屋根を設置し、天候に左右されずに人が集える魅力的な空間を創出する。
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：なし
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	大屋根設置中
市道駅前太平線空間整備事業の今後について	平成 25 年 7 月に完成。完成した全天候型広場を活用し、イベント等を行い、駅周辺への来街者の呼び込み、中心市街地市街への関心喚起を図る。 魅力的な空間となることにより、民間投資の呼び込みによる空き店舗の解消が期待できる。

3. 今後について

平成 25 年 3 月に認定を受けた 2 期計画では、基本方針の「賑わいの創出」を示す指標のひとつを、引き続き「歩行者・自転車通行量」としており、地域資源を保全・活用・発信するとともに、多様な人・物・情報が行き交う拠点や仕組みを整備することにより、人が集まり回遊する中心市街地の形成をめざす。

そのためには、新たな拠点施設の整備とこれまでに整備した施設の活用を促進するとともに、施設で開催されるイベント等の情報提供を積極的に行う。また、来街者の回遊性向上のため、施設を結ぶ 100 円循環バス（くる梨）のコース増設など、公共交通機関の利便性の向上をめざす。

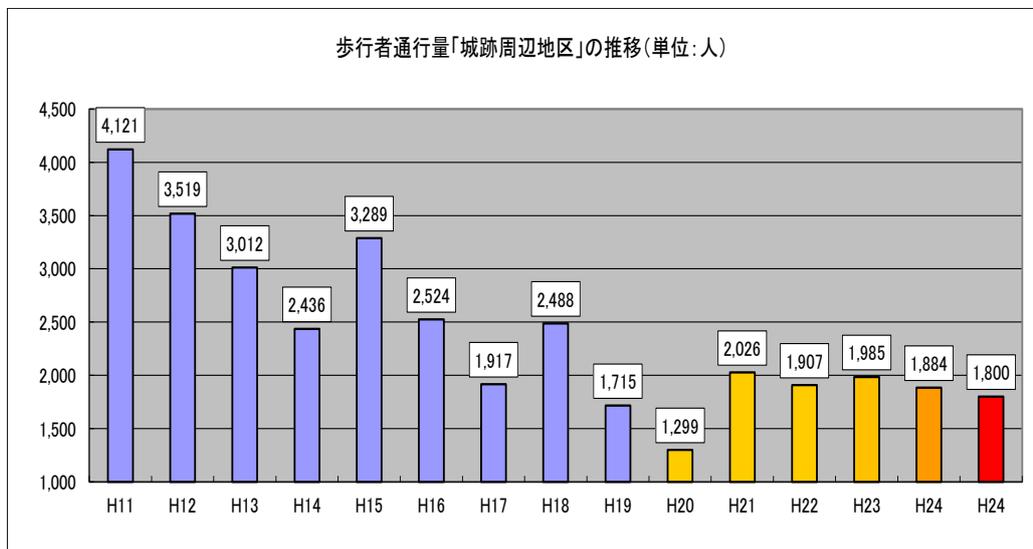
また、平成 25 年 7 月に市道駅前太平線に完成予定の全天候型広場を活用して、休日に様々なイベントを開催することで、駅周辺への来街者の呼び込みを図っていく。

個別目標

目標「行きたいまち」

「歩行者通行量（鳥取城跡周辺地区）」※目標設定の考え方基本計画 P47～P48 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(人)
H19	1,715 (基準年値)
H20	1,299
H21	2,026
H22	1,907
H23	1,985
H24	1,884
H24	1,800 (目標値)

※調査方法：鳥取商店街連合会に調査実施を委託。7月最終週または8月第1週の平日1日ずつ計2日間において調査。該当地区内3地点において、10：00～19：00まで調査員が数取器により計測。各地点の2日間平均値を集計し、把握する。

※調査月：平成24年8月

※調査主体：鳥取市商店街振興組合連合会

※調査対象：3地点（わらべ館前、商工会議所前、中電ふれあいホール前）における歩行者および自転車の平日2日間の平均値

【総括】

計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了した。歩行者通行量は、平成21年度以降は目標値を上回っており、目標年度である平成24年度は、目標値を84人上回る1,884人となった。

各事業の実施により、中心市街地の拠点施設としての魅力向上が図られ、来街者及び周辺歩行者通行量の増加につながった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ①. 西町広場（緑地）整備事業（鳥取市）及びわらべ館イベント事業（(財)鳥取童謡・おもちゃ館）

【西町広場（緑地）整備事業】

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成23年度
事業概要	中心市街地内の観光施設である「わらべ館」に隣接する広場（緑地公園）および周辺環境を整備することにより、相乗効果による滞留時間の延長を図る。 ・面積 約2,900㎡（芝生広場：1,500㎡ エントランス広場：900㎡）

	m ² 土の広場：500 m ²)
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：+185人（【西町広場（緑地）整備事業】と【わらべ館イベント事業】の合計） 最新値：+93人（当該地直近の調査地点）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	広場の整備により、子ども達や親子連れが訪れるようになったが、当初想定していたわらべ館イベント事業との相乗効果は見られず、周辺の歩行者通行量の増加については当初見込みほどの効果は得られなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成23年7月に全面供用開始となり、子ども達や親子連れでにぎわっている。 当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年に比べ93人増加。 H19年 516人 → H24年 609人
西町広場（緑地）整備事業の今後について	実施済み

【わらべ館イベント事業】

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成7年度～
事業概要	童謡・唱歌とおもちゃをテーマとしたミュージアムである「わらべ館」において、常設展示と併せ、子育て世代等を対象とした各種イベントを開催。
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：+185人（【西町広場（緑地）整備事業】と【わらべ館イベント事業】の合計） 最新値：+93人（当該地直近の調査地点） H24の当該地直近の調査地点の歩行者通行量：609人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	童謡・唱歌コンサート、紙芝居劇場、おもちゃづくり体験、映画上映会等、さまざまなイベントを開催したが、当初想定していた西町広場（わらべ夢ひろば）整備との相乗効果は見られず、周辺の歩行者通行量の増加については当初見込みほどの効果は得られなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	常設展示と各種展示・イベント等の組み合わせにより、継続的に城跡周辺地区への親子連れや高齢者を中心とした来街者の呼び込みにつながっている。
わらべ館イベント事業の今後について	魅力的なイベントを開催するとともに、隣接地に整備された西町広場（わらべ夢ひろば）と連動した取組を検討する。

②. 片原駐車場整備事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成21年度～平成22年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成22年度
事業概要	既存の市営駐車場を時間貸駐車場として再整備することにより、鳥取城跡及び智頭街道商店街周辺エリアにおける来訪者の利便性向上を図る。 ・形式 自走式立体駐車場（4層5段構造） ・駐車台数 136台 ・レンタサイクル 15台
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：平成24年度の利用台数は、35,185台（月平均2,932台）。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—

計画終了後の状況（事業効果）	時間貸し駐車台数の確保、城跡周辺地区への来街者の呼び込み、集約駐車場からの人の流れの創出につながっている。
片原駐車場整備事業の今後について	実施済み

③. ふれあいホール整備事業（中国電力）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 21 年度
事業概要	ギャラリーやラウンジを併設するホール等を整備するほか、外壁部分に大型ディスプレイを設置し、イベント等の情報発信を行う。
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：+276 人 最新値：+169 人（事業効果を測る地点を調査地点 3 地点全てとしており、その基準年度と目標年度の差の合計） 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月までの入館者数は 41,882 人。
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	年間 4 万人程度の利用者があり、当該地直近の調査地点の歩行者通行量は基準年に比べ増加したが、平日の歩行者通行量の増加には結びつかなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	建物壁面を利用した展示、電光掲示板による情報発信機能の付加により、来街者や居住者の魅力向上、まちのイメージアップにつながった。施設利用者が来街することにより、城跡周辺地区への呼び込みにつながった。 当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年に比べ 127 人増加。 H19 年 253 人 → H24 年 380 人
ふれあいホール整備事業の今後について	実施済み

④. にぎわい交流施設整備（鳥取産業会館移転）（鳥取商工会議所）

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 平成 18 年度～平成 20 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 20 年度
事業概要	鳥取産業会館を建て替え、地域交流ホールや産学官交流室等を整備することにより、賑わい交流機能を強化する。 ・鉄骨造 5 階建 ・敷地面積 2,207.51 m ² ・延床面積 4,501.22 m ²
目標値・最新値	歩行者通行量(平日)の増 目標値：+83 人 最新値：△50 人（当該地直近の調査地点） H24 の当該地直近の調査地点の歩行者通行量：896 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	休日の歩行者通行量は増加したが、平日には効果が及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	会議室の利用を一般に開放することにより、休日の来街者等の呼び込みにつながった。 整備後、近隣にコンビニエンスストアが新規出店するなど、来街者や居住者の利便性向上につながった。
にぎわい交流施設整備（鳥取産業会館移転）の今後について	実施済み

⑤. 五臓圓ビル再生事業（街づくり株式会社いちろく）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度
事業概要	市内に現存する最古（昭和 6 年建築）の鉄筋コンクリート造の建築物で、国の登録有形文化財にも登録されている「五臓圓ビル」を文化・芸術に関する活性化拠点として再生する。 ・鉄筋コンクリート 3 階建 ・利用面積 299.60 m ² ・1 階 店舗、交流スペース ・2 階 ギャラリー、カフェ ・3 階 工房
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：平成 24 年度の入館者数は、33,103 人。
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	カフェ・ギャラリー・工房等が入居する交流拠点として、年間 33,000 人程度の入館者があり、城跡周辺地区への来街者の呼び込みにつながった。 文化・芸術関連イベント等の舞台として情報発信されることにより、中心市街地への関心喚起、まちのイメージアップにつながった。
五臓圓ビル再生事業の今後について	実施済み

⑥. 智頭街道商店街活性化事業（街づくり株式会社いちろく）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 23 年度～
事業概要	空き店舗等を活用することにより、文化・芸術関係業種の誘導やカルチャー教室等を整備する。
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：なし
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	商店街活がめざす「文化・芸術溢れる商業エリアの構築」という方向性に沿って関係業種を誘導することにより、空き店舗の解消につながった。 カルチャー教室等を開催することにより、城跡周辺地区への来街者の呼び込みにつながった。 文化・芸術関連イベントを開催することにより、中心市街地への関心喚起、まちのイメージアップにつながった。
智頭街道商店街活性化事業の今後について	商店街の空き店舗にコンセプトに合った業種を誘致していく。

3. 今後について

平成 25 年 3 月に認定を受けた 2 期計画では、基本方針の「賑わいの創出」を示す指標のひとつを、引き続き「歩行者・自転車通行量」としており、地域資源を保全・活用・発信するとともに、多様な人・物・情報が行き交う拠点や仕組みを整備することにより、人が集まり回遊する中心市街地の形成をめざす。

そのためには、新たな拠点施設の整備とこれまでに整備した施設の活用を促進するとともに、施設で開催されるイベント等の情報提供を積極的に行う。来街者の回遊性向上のため、施設を結ぶ 100 円循環バス（くる梨）のコース増設など、公共交通機関の利便性の向上をめざす。

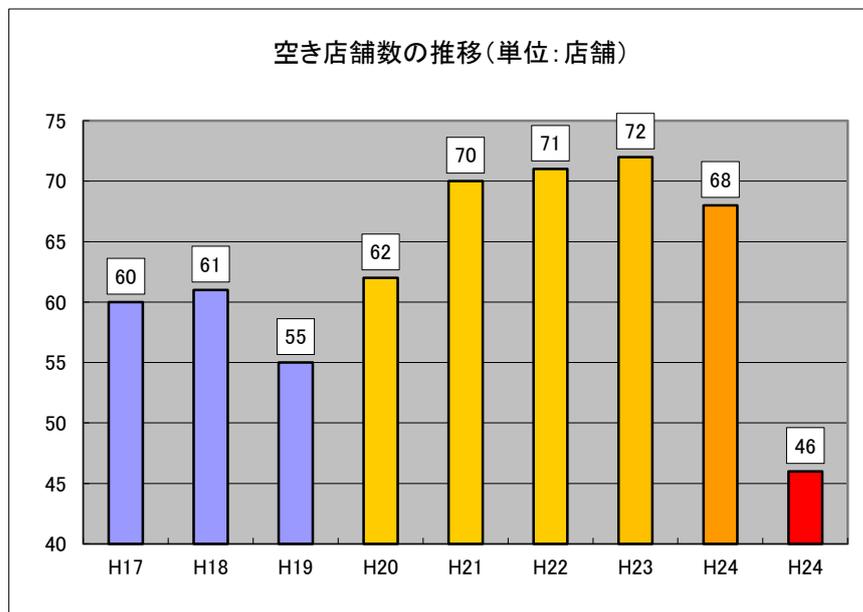
また、平成 25 年 7 月に市道駅前太平線に完成予定の全天候型広場を活用して、休日に様々なイベントを開催することで、駅周辺への来街者の呼び込みを図っていく。

個別目標

目標「行きたいまち」

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P48 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(店舗)
H19	55 (基準値)
H20	65
H21	70
H22	71
H23	72
H24	68
H24	46 (目標値)

※調査方法：鳥取市中心市街地活性化協議会が調査を実施。毎月、商店街区域にある建物のうち、1階部分の空き店舗件数を目視により確認のうえ集計し、把握。

※調査月：平成 24 年 10 月

※調査主体：鳥取市中心市街地活性化協議会

※調査対象：中心市街地商店街振興組合地区

【総括】

計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了した。空き店舗数は、平成 19 年度～平成 21 年度は増加傾向にあったが、平成 21 年度以降は横ばいで推移している。目標年度である平成 24 年度の空き店舗数は 68 店舗であり、目標値の 46 店舗に対し+24 店舗、基準年の 55 店舗に対しても+13 店舗となっている。

「空き店舗対策事業」等の実施による新規開業店舗数は 30 店舗を超えているが、売り上げ低迷、経営者の高齢化、後継者不在等による廃業がそれを上回っており、また、所有者に貸す意思が無い店舗や、建物の構造上貸せない店舗もあり、結果的に空き店舗の減少に至らなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. チャレンジショップ事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 19 年度～
事業開始・完了時期	平成 16 年度～
事業概要	中心市街地の空き店舗を活用し、仮店舗を設置したうえで新たな事業者の育成を図る。
目標値・最新値	空き店舗の解消（新規出店） 目標値：18 店舗（H20～H24）

	<p>最新値：7 店舗（H20～H24） 平成 16 年度からの累計 ・ 出店者数 53 ・ 卒業者数 47 ・ 開業者数 33 ・ 開業率 70.2% ・ 継続者数 29 ・ 継続率 87.9% （出店者数：チャレンジショップに出店した数、卒業者数：チャレンジショップを卒業した数、開業者数：卒業者のうち新たに開業した数、継続者数：開業者数のうち継続している数）</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 20 年～平成 21 年の出店者数が 10 名だったのに対し、経済状況の低迷等により平成 22 年度～平成 24 年度は 1 名と激減し、事業の利用促進が図れなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	空き店舗をチャレンジショップとして活用できたほか、卒業生がチャレンジショップで使用した店舗で引き続き開業するなど、空き店舗の解消、来街者の増加につながっている。 商工会議所が中心となって運営協議会を設置し、経営指導等によるサポートを行うことにより、地元事業者の育成につながっている。
チャレンジショップ事業の今後について	引き続き、開業・起業を支援することで、「空き店舗の解消」、「賑わいの創出」に寄与していく。

②. 鳥取市商業振興補助事業・鳥取市新規創業・開業支援事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 19 年度～
事業開始・完了時期	平成 13 年度～
事業概要	中心市街地の新規開業者の店舗改装や商店街が実施する集客イベントを支援することにより、空き店舗の解消や賑わい創出を図る。
目標値・最新値	空き店舗の解消（新規出店） 目標値：16 店舗（H20～H24） 最新値：25 店舗（H20～H24）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	各種支援制度が周知され、多くの新規開業者に利用された。 新規開業者の店舗改装に対する支援に加え、平成 22 年度に「空き店舗改修支援事業」を創設し、利用者が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	空き店舗対策補助は、チャレンジショップ卒業生を含む新規開業者の育成につながっている。 イベント補助は、商店街エリアへの来街者の呼びこみにつながっている。
鳥取市商業振興補助事業・鳥取市新規創業・開業支援事業の今後について	引き続き、新規創業・開業や商店街のイベントに対し支援することで、「空き店舗の解消」、「賑わいの創出」に寄与していく。

③. 智頭街道商店街活性化事業（街づくり株式会社いちろく）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 23 年度～
事業概要	空き店舗等を活用することにより、文化・芸術関係業種の誘導やカルチャー教室等を整備する。
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：なし
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	商店街活がめざす「文化・芸術溢れる商業エリアの構築」という方向性に沿って関係業種を誘導することにより、空き店舗の解消につ

	<p>ながった。 カルチャー教室等を開催することにより、城跡周辺地区への来街者の呼び込みにつながった。 文化・芸術関連イベントを開催することにより、中心市街地への関心喚起、まちのイメージアップにつながった。</p>
智頭街道商店街活性化事業の今後について	商店街の空き店舗にコンセプトに合った業種を誘致していく。

④. 市道駅前太平線空間整備事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（鳥取駅周辺地区）） 平成 22 年度～平成 26 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 26 年度
事業概要	J R 鳥取駅前に位置する「市道駅前太平線」に、まちの新たなシンボルとなる大屋根を設置し、天候に左右されずに人が集える魅力的な空間を創出する。
目標値・最新値	目標値：なし 最新値：なし
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	大屋根設置中
市道駅前太平線空間整備事業の今後について	H25. 7 月に完成。完成した全天候型広場を活用し、イベント等を行い、駅周辺への来街者の呼び込み、中心市街地への関心喚起を図る。魅力的な空間となることにより、民間投資の呼び込みによる空き店舗の解消が期待できる。

3. 今後について

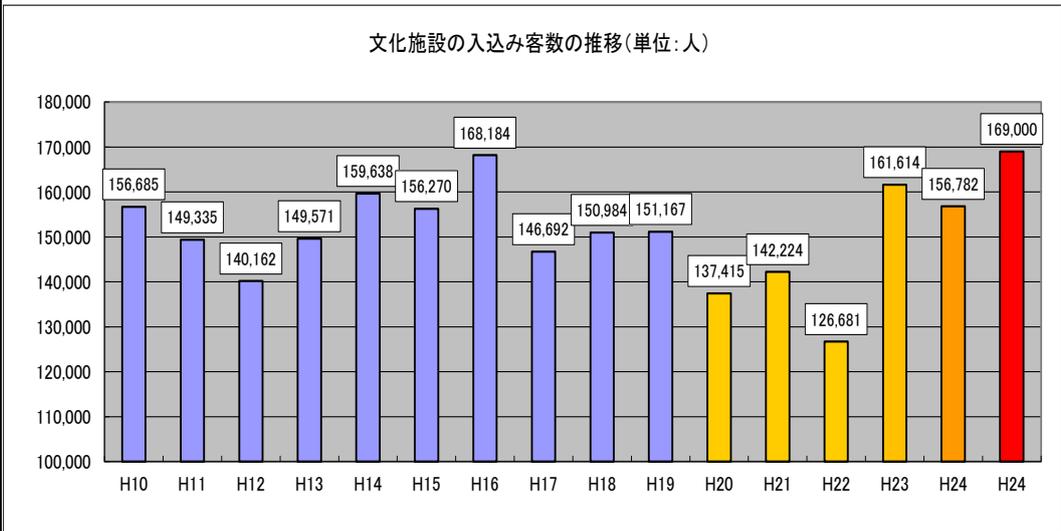
平成 25 年 3 月に認定を受けた 2 期計画では、基本方針の「賑わいの創出」を示す指標のひとつを「新規開業数」とし、新規商業者に対する支援や、商業の活性化等に関連する各種事業に引き続き取り組むことにより、各商店街を中心とする中心市街地の新規開業数の増加をめざす。

そのためには、各商店街の活性化事業への支援を行うとともに、エリアごとの商業拠点整備の取組を強化していく。鳥取駅周辺では「鳥取駅周辺再生基本構想」に基づく環境整備事業等を着実に推進し、中心市街地商店街エリアの出店環境の魅力を高めることで新規出店者を呼び込み、空き店舗の解消をめざす。

目標「ふるさとを感じるまち」

「文化施設の入込み客数」※目標設定の考え方基本計画 P48 参照

1. 目標達成状況の総括



年度	(人)
H18	150,984 (基準値)
H19	151,167
H20	137,415
H21	142,224
H22	126,681
H23	161,614
H24	156,782
H24	169,000 (目標値)

※調査方法：毎年4月、該当施設である「わらべ館」および「仁風閣」からの報告により前年度入館者数を集計し、把握。

※調査月；平成25年4月

※調査主体；鳥取市

※調査対象；わらべ館・仁風閣

【総括】

「ふるさとを感じるまち」に資する事業は概ね予定どおり進捗・完了した。

緩やかな減少傾向にあった施設の入込み客数は、平成20年度の「仁風閣」の修復、平成22年度の「わらべ館」の展示リニューアルに伴う休館により大きく減少したが、修復、リニューアル後の平成23年度には大幅に増加し、前年比34,933人増となった。しかし、目標年度である平成24年度は、前年比△4,832人の156,782人となり、目標値の169,000人には及ばなかった。

「わらべ館」、「仁風閣」ともさまざまな展示・イベントを開催し、来館者の増加につながった。西町広場（わらべ夢広場）の整備により人の流れが生まれたものの、「わらべ館」の来館者数については当初見込んでいたほどの効果が上がらなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. わらべ館イベント事業（（財）鳥取童謡・おもちゃ館）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成7年度～
事業概要	童謡・唱歌とおもちゃをテーマとしたミュージアムである「わらべ館」において、常設展示と併せ、子育て世代等を対象とした各種イベントを開催。
目標値・最新値	入込客数の増 目標値：+1,800人（①のみの効果） 最新値：△3,989人（①③合計） 基準年 H18 の入込客数 123,205人 目標年 H24 の入込客数 119,216人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	童謡・唱歌コンサート、紙芝居劇場、おもちゃづくり体験、映画上映会等、さまざまなイベントを開催したが、当初想定していた西町広場（わらべ夢ひろば）整備との相乗効果は見られず、入館者数の

	増加については当初見込みほどの効果は得られなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	常設展示と各種展示・イベント等の組み合わせにより、継続的に城跡周辺地区への親子連れや高齢者を中心とした来街者の呼び込みにつながっている。 当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年に比べ 93 人増加。 H19年 516人 → H24年 609人
わらべ館イベント事業の今後について	魅力的なイベントを開催するとともに、隣接地に整備された西町広場（わらべ夢ひろば）と連動した取組を検討する。

②. 仁風閣イベント事業（（財）鳥取市文化財団）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	昭和 51 年度～
事業概要	国指定重要文化財である明治期の洋風建築「仁風閣」において、藩主池田家の歴史を紹介する常設展示と併せ、各種イベントを開催する。
目標値・最新値	入込客数の増 目標値：+400 人 最新値：+9,787 人 基準年 H18 の入込客数 27,779 人 目標年 H24 の入込客数 37,566 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	ガーデンカフェ、フォトコンテスト、写生大会、写真展、絵画・イラスト展、朗読会等、様々なイベントを開催し、来館者増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	指定重要文化財として歴史的価値のある建物を各種展示・イベント等に活用することにより、継続的に城跡周辺地区への来街者の呼び込みにつながっている。
わらべ館イベント事業の今後について	今後とも、魅力的な展示・イベントを開催していく。

③. 西町広場（緑地）整備事業（鳥取市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） 平成 20 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 23 年度
事業概要	中心市街地内の観光施設である「わらべ館」に隣接する広場（緑地公園）および周辺環境を整備することにより、相乗効果による滞留時間の延長を図る。 ・面積 約 2,900 m ² （芝生広場：1,500 m ² エントランス広場：900 m ² 土の広場：500 m ² ）
目標値・最新値	入込客数の増 目標値：+12,250 人（③のみの効果） 最新値：△3,989 人（①③合計） 基準年 H18 の入込客数 123,205 人 目標年 H24 の入込客数 119,216 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	西町広場（わらべ夢ひろば）の来訪者が、わらべ館の入館者に結びつかなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年 7 月に全面供用開始となり、子ども達や親子連れでにぎわっているが、入館者数にはなかなか結び付いていない。 当該地直近の調査地点の歩行者通行量は、基準年に比べ 93 人増加。 H19年 516人 → H24年 609人
西町広場（緑地）整備事業の今後について	実施済み

3. 今後について

対象施設のある鳥取城跡周辺地区の観光エリアとしての魅力を高めるため、平成 24 年 3 月に策定した「鳥取城跡観光推進計画（案）」や平成 25 年 3 月に策定した 2 期計画等に基づき、お堀端周辺の修景・景観保全や観光用駐車場の整備等を推進していく。併せて、各施設の特色を活かした新たなソフト事業の構築や、周辺施設との連携を図ることにより、入込み客数の増加をめざす。

また、自然資源や歴史的建造物、史跡、文化財等の地域資源の観光資源化に取り組むことにより、観光促進と地域の活性化をめざす。これらの地域資源の観光資源化の実現手法について、市民からの提案を募集していく。

さらに、鳥取砂丘周辺エリアを訪れる観光客を中心市街地に呼び込むため、鳥取砂丘の観光施設「砂の美術館」入館者に中心市街地内各店舗でのサービスを提供する「砂美でARUCO（すなびであるこ）」等の取組を推進していく。